2024 年度（2024 年 9 月）卒業アンケート結果について

2025 年 9 月 22 日

このアンケートは、2024 年 9 月卒業生 24 名中 17 名（70.8%）の回答を分析したものである。回答者の専修言語の内訳は、現代英語学科が 2 名、国際コミュニケーション学科中国語専修 2 名、フランス語専修 1 名、日本語専修 12 名である。

以下、6 つのカテゴリーごとに分析を付す。回答者が 17 名と少数であるため、グラフの提示は行わない。

Ⅰ．語学力・教養・主体性に関する学生の自己評価

回答者は少ないが、全ての設問において「そう思う」「ある程度そう思う」という肯定的な回答が 80～90%を占めていた。これは、学生が自身の学びに対して強い満足感と成長実感を持っていることを示している。

特に、語学力の向上や社会で必要とされる教養・専門知識の習得に対する評価が高く、本学の教育が実践的かつ効果的であったことがうかがえる。また、主体的に学ぶ姿勢や、卒業後も学び続ける力が身についたとする声も高く、本学での学びが自律的な学習者としての基盤形成に貢献していることが見て取れる。

Ⅱ．専門プログラムの選択傾向

回答者の 17 名中 12 名が日本語専修の学生であったため、当然の結果として、「日本研究プログラム」が最も関心を集めたが、「多文化理解プログラム」、「アジア研究プログラム」の他、「ヨーロッパ研究プログラム」、「航空/観光ホスピタリティプログラム」、「通訳・翻訳プログラム」、「英語専門職プログラム」の選択が見られた。

Ⅲ．Gaidai プログラムについて

Gaidai プログラムとは、本学におけるハイ・インパクト・プラクティス（高効果型教育実践）として位置づけられる実践的な教育プログラムである。学生が主体的に学び、社会

や国際社会との接点を持ちながら成長することを目的としており、以下の科目を主な構成要素としている：海外留学事前研究・事後実習、海外語学・文化研修、海外自由研究、ボランティア活動、インターンシップ、海外インターンシップ、Gaidai プロジェクト、卒業研究。これらの科目を通して、学生は知識の習得にとどまらず、現場での実践力や課題解決力、多様な価値観への理解力を育むことができる。

履修状況についての結果を見ると、最も多く履修されていたのは「海外自由研究」で 12 名が選択しており、学生の自主的な探究活動への関心の高さが伺える。次いで、「Gaidai プロジェクト」が 10 名、「卒業研究」が 7 名、「海外語学・文化研修」が 4 名、「インターンシップ」が 2 名、「留学事前研究・事後実習」が 1 名であった。

プログラムを通じて身についたと感じる力としては、「問題解決力」と「多角的な思考力」（10 名）や「現代社会についての知識・理解」「課題発見力」「実践的行動力」「多様性への理解」（各 9 名）、「他者と協働する姿勢」（8 名）、「自信」「主体性」（各 4 名）、「物事の本質を捉える力」（1 名）など、思考力や洞察力に関する評価が高かった。

成長実感については、全員が肯定的に回答しており「そう思う」（13 名）、「ある程度そう思う」（4 名）であり、このプログラムが学生の自己成長に大きく寄与したことが確認できる。少人数ながらも、Gaidai プログラムが提供する実践的・探究的な学びは、参加者に深い学びと成長の機会をもたらしていたと評価できる。

Ⅳ．学生生活・交流機会に関する満足度

全体として、すべての設問において肯定的な回答「そう思う」「ある程度そう思う」）が 7 割以上を占めている。これは、本学における学習環境や学生支援体制が、学生の期待に応えていたことを示している。

特に、「学業にやりがいを持って取り組めた」とする回答が多く、学生は自身の学びに対して前向きに取り組んでいたことがわかる。また、「学業以外の学生生活の充実度」や「教職員との交流機会」「国際交流の経験」についても、いずれも高い評価が寄せられており、学生生活全般が多面的に充実していたことが読み取れる。

Ⅴ．大学のサポート体制に対する学生の認識

大学側のサポートについての総合的な満足度を問う設問（「適切でしたか」）に対して、16 名が肯定的に評価している。否定的回答はなく、大学の支援体制は概ね適切であったと評価できる。ただし、1 名の「あまり思わない」という回答があった点には留意が必要であり、今後も個別のサポート状況の把握と対応の丁寧さが求められる。

Ⅵ．自由記述回答から

自由記述の内容からは、回答者全員が 4 年間の大学生活を前向きに振り返っていることがうかがえる。「充実した大学生活」「貴重な経験」といった表現から、学習面・生活面ともに実りある時間であったと感じていることが読み取れる。また、「日本語が上達した」「日本の人との交流」などのコメントからは、言語力の向上や異文化交流の成果も見られる。全体として、留学生にとって本学での 4 年間は有意義であり、学びと成長の機会に満ちたものであったと総括できる。

総 括

本アンケートは、2024 年 9 月卒業生 17 名全員を対象としたものであり、少数ではあるが、学生の学びや学生生活に対する満足度を多面的に捉える貴重な結果となった。語学力・教養・主体性に関しては全員が肯定的に評価しており、教育の質と自己成長の実感が強く示されている。専門プログラムや Gaidai プログラムでは、特に自主的な探究活動に対する関心が高く、実践的な学びが効果を上げていることが確認された。学生生活や交流機会、大学の支援体制についてもおおむね高評価であり、全体として本学での 4 年間は、学問的・人的な成長の機会に恵まれた、有意義なものであったと総括できる。

以 上